

シラバス参照

科目名	人口論 I
配当年次	3年次
開講期間	前期
単位数	2
担当教員	西川 由比子(ニシカワ ユイコ)
期間・曜日・時限・教室	前期 火曜日 2時限 2-102

※	
授業の目的・目標	人口の動向には社会・経済要因が作用すると同時に、人口現象が実生活に与える影響は多様である。開発途上国においては人口の急増が社会発展を阻害している。一方、先進諸国では少子高齢化による労働市場、社会保障への影響が懸念されており、人口問題は地域における発展段階により多様である。本講義ではこのような人口現象の決定メカニズムについて学ぶ。
準備学習等の指示	次回授業内容に関してはweb-classにレジュメを提示する。授業前にプリントし、授業で展開される内容を読んで授業に臨むこと(事前学習)。授業内容に応じてリアクションペーパー課題を提示するので、作成の上提出すること(事後学習)。1回の授業につき3時間の準備・ふりかえり学習を実施してください。
講義スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 人口問題の所在(1):人口学の現状(人口学の方法について理解する) 2 人口問題の所在(2):世界人口の動向(世界人口の動向を知り日本の人口動向を理解できる) 3 人口問題の所在(3):人口指標(人口を分析するための指標を習得できる) 4 人口の歴史的推移(1):人口転換理論(人口の趨勢を理論から理解できる) 5 人口の歴史的推移(2):人口現象の多様性(人口現象の多様性について認識できる) 6 人口の歴史的推移(3):人口構造の変化(人口構造の変化について学び人口構造から生じる問題点を理解できる) 7 死亡率転換(1):死亡率転換のプロセス(死亡率が低下過程について理解できる) 8 死亡率転換(2):疫学的転換(死亡率が推移してきた過程を理論により理解できる) 9 死亡率転換(3):死亡率決定に関する社会・経済分析(死亡率低下過程に関する経済分析をできる) 10 死亡率転換(4):死亡変動に関する事例(途上国:インド)(死亡変動過程をデータ事例を通して理解できる) 11 出生力転換(1):出生力の地域格差(出生力の地域格差を知り日本および世界地域の現状を理解できる) 12 出生力転換(2):出生力の経済学(1)(出生力決定に関してミクロ経済学の理論を応用できる) 13 出生力転換(3):出生力の経済学(2)(出生力決定に関してミクロ経済学の理論を応用できる) 14 出生力転換(4):出生力の社会経済分析事例(出生力決定理論を応用できる) 15 まとめと試験
教科書	とくに指定はしないが、参考文献に記された著書を参照すると授業の理解に役立つ。
参考文献	授業内容に関しては 河野稠果『世界の人口』(第2版)東京大学出版会を参照されたい。 また、授業内容に応じて随時紹介をする。
授業の方法	講義形式
成績評価方法	前期、後期の定期試験90%による。小テスト受験状況およびリアクションペーパー10%
オフィスアワー	水曜日4時限目を予定。事前に連絡の上、用件を伝え、研究室を訪問することが望ましい。
居室	12号館1階研究室103号室
ホームページ	
その他特記事項	人口論Ⅱとあわせて受講することが望ましい。 理解度確認のための小テストを数回行う。小テストは理解度チェックのためのもので、正解提示と解説をする。
添付ファイル	